

観光大和歴史館

上棟式

昭和 14 年秋

写真提供：谷井孝次氏



京終ニュース 19号 (京終地域の情報誌)

令和 2 年 (2020) 6 月 10 日発行

『奈良観光の大立者 谷井友三郎は京終出身』

京終ニュース 19号

編集・発行：京終文殊 編集人：安西俊樹 構成：菊宮健一 背景イラスト：naminamiland
印刷：共同プリント株式会社
〒630-8322 奈良市北京終町30ゲストハウスならまち内 TEL 0742-87-0522
～京終地域に無料配布しています！～ 京終地域の情報誌(2か月毎発行)

イラスト：伊藤 満



奈良観光の大立者 谷井友三郎は京終出身

新型コロナウイルスの影響で「京終ニュース」の取材もままならないので、560頁にもなる『谷井友三郎伝』(81年)を紐解きます。

谷井友三郎(1901～1979)は、北京終町の現在、登録有形文化財・吉岡家住宅のある場所である井家の第7子として生まれ、後に谷井家の婿養子となり、劇場や映画館を営む谷井興業を興し、市会議員、県会議員を務め、奈良市観光協会会長として活躍した人物です。



谷井友三郎(歴代奈良市議会議長の写真から)

井家の第7子として生まれ、後に谷井家の婿養子となり、劇場や映画館を営む谷井興業を興し、市会議員、県会議員を務め、奈良市観光協会会長として活躍した人物です。

幼い頃の友三郎は、創意工夫を凝らした遊びの名人で、ペーゴマやメンコがうまく遊び場だった飛鳥神社(当時は京終天神社)でのリーダー格でした。17歳で結婚後は、日本各地で開かれる勸業博覧会で墨を売るなどしていました。1929年からは、そうした博覧会で「奈良館」を開き、1933年の「奈良市制35周年記念観光産業博覧会」

新型コロナウイルスの影響で「京終ニュース」の取材もままならないので、560頁にもなる『谷井友三郎伝』(81年)を紐解きます。

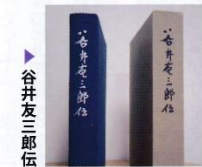
では大いに人気を博しました。しかし、途中で水害に遭い、その損失を自ら補償しました。

「紀元2600年」の1940年、三条通りに歴史パノラマ14景を具えた「観光大和歴史館」を建てました。同館は、観光協会会長として奈良遷都1250年祭を開き、長谷川一夫が聖武天皇に扮する一大絵巻を実現させました。

1946年、年末恒例の若宮おん祭りの時代行列を進駐軍と掛け合い私財を投じて復活させました。1960年に



「観光大和歴史館」の上げ式。前列中央にいるのが谷井友三郎(県立図書館情報館「まほろばデジタルライブラリー」より。谷井氏提供)



谷井友三郎伝



谷井友三郎が、奈良市庁舎落成記念として寄贈した石燈籠＝奈良市役所敷地内

こんな発言が『友三郎伝』に載っています。「我々は偉大な遺産を先祖から与えられている。そして多大な恩恵を蒙っている。殊に奈良はその最たるものではないか。(中略)報恩事業として遺産即ち社寺仏閣は勿論、諸行事を含め、一切を大事に承継し、保護し、一般国民に知って貰うべきだ。自分はこの方面に尽くしたいと思う」(神野武美)